神戸新聞 2016年04月12日 火曜日 面名 朝一 １４ 1ページ

鮮やかに染め上げられる播州鯉＝加東市大畑（撮影・風斗雅博）

播州鯉 大空心待ち

NEXTに動画

加東の特産、生産ピーク

端午の節句を前に、加東市で特産のこいのぼり「播州鯉（ばんしゅうごい）」の生産が最盛期を迎えている。職人の手作業で色鮮やかに染められたコイが、大空で泳ぐ日を待っている。

播州鯉は明治30（1897）年ごろ、堺市から絵師が技術を持ち帰ったとされる。100年以上、受け継がれてきた伝統品で、ピーク時は加東市内で少なくとも７軒が生産していたが、現在、２軒のみとなっている。

同市大畑の柴崎物産では、こいのぼりの型枠を白のナイロン生地に乗せ、色ごとにはけで染め上げていく作業の真っただ中。同社５代目の柴崎彰孝代表（65）は、乾燥用の蒸気がこもる染色台の上で、汗をにじませながら目やうろこに色を乗せていった。

作業は４月下旬まで続き、主に関西の小売店に並ぶ。毎年、伊勢神宮に奉納する２千匹の製作も始まっている。（風斗雅博）

（C）神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① こいのぼり「播州鯉」は、何市の特産物ですか？（　　市）

② このこいのぼりは、どのような作業でつくられるのですか？それがわかるところに線を引きましょう。

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

名 前 【　　】

NIEワークシート／小学校／国語、社会、総合、朝NIE